

創立70周年記念

第49回 公募

全書芸展

後援・文化庁・東京都

主催 全日本書芸文化院

<https://www.z-shogei.co.jp>

—無鑑査・公募—

第49回 全書芸展表彰・入賞

創立70周年記念

国立新美術館 2B・2C・2D

令和2年12月10日(木)～21日(月)

無鑑査漢字

文化院大賞

(I部臨書)

千葉県 滝口 蘭 邦

文化院準大賞

(I部臨書)

新潟県 多田 豊美
神奈川県 小松 良玄
東京都 飯田 朗翠
東京都 鈴木 映豊
千葉県 古川 翠光

(II部臨書)

宮城県 金澤 薫風
山梨県 佐藤 公峰
東京都 円筒 稀峰
千葉県 西館 鈴洋

創立七十周年記念賞

(I部臨書)

山梨県 鈴木 恵峰

以上展覧会委員推挙

文化院奨励賞

(I部臨書)

東京都(山本) 晃翠

(II部臨書)

東京都(松田) 松陽

○印は展覧会委員推挙

(I部臨書)

千葉県 加納 純香
千葉県 鎌田 優泉
千葉県 黒川 寿蕙
神奈川県 瀬之口 宗悦
千葉県 積田 智子

(I部創作)

青森県 島田 琴鳳

(II部臨書)

三重県 大西 清玄
東京都 菅沼 蓮容
東京都 鈴木 真彦
千葉県 常泉 久泉

(II部創作)

東京都 池田 慧秋
神奈川県 上田 玲子

文化院準奨励賞

(I部臨書)

千葉県(大平) 義雄

○印は展覧会委員推挙

(I部臨書)

神奈川県 浅野 良醉
東京都 小笠原 修峰
茨城県 神永 花瑤
静岡県 川合 佑香
茨城県 小菅 玉蘭
東京都 小室 朗秋
東京都 峪口 紅霞
三重県 佐藤 紅玉
埼玉県 佐藤 亮子
埼玉県 佐藤 珠恵
埼玉県 関口 鳳春
東京都 玉村 耿山
東京都 中澤 紫柳
東京都 野堀 紫柳
千葉県 長谷川 晶雀
埼玉県 林田 小葵
東京都 平井 静光
埼玉県 村上 絵里子

(I部創作) 神奈川県 山浦 五律
東京都 杉本 冬玲

(II部臨書) 千葉県 井口 加扇
千葉県 岩崎 一葉

山口県 尾崎 鳩月

兵庫県 片山 妙泉

千葉県 加藤 彩月

北海道 川合 容子

東京都 黒岩 凌山

新潟県 駒形 晃石

富山県 樽谷 美圃

千葉県 本間 加苑

山口県 村田 鳩清

(II部創作) 神奈川県 内藤 碧水

(I部創作) 東京都内 記 瀨秋

(II部臨書) 東京都 柳沼 白峰

(I部臨書) 東京都 五十崎 江彩

(I部臨書) 埼玉県 村上 織雪

(I部臨書) 埼玉県 田中 蘇星

特別依頼
○印は展覧会委員推挙

無鑑査かな

文化院大賞

(I部創作) 東京都 瀧野 朋子

文化院準大賞

(I部創作) 神奈川県 小林 富貴子

東京都 守 治美

(I部臨書) 東京都 穂積 展子

(II部創作) 神奈川県 永山 美保子

(II部創作) 埼玉県 杉浦 喜代

七十周年記念賞

(I部臨書) 千葉県 鳩山 えり子

以上展覧会委員推挙

文化院奨励賞

(I部創作) 東京都 遠藤 美樹

東京都 川村 博子

(II部創作) 神奈川県 吉田 草炎

(II部臨書) 東京都 青山 尚子

(II部臨書) 東京都 川本 麻里

(II部臨書) 埼玉県 佐藤 京子

文化院準奨励賞

(I部創作) 東京都 安斉 邦子

神奈川県 石毛 澄翠

茨城県 井上 美智枝

東京都 牛山 青蘭

神奈川県 小口 暁子

神奈川県 小野 美登里

茨城県 桑島 令艸

東京都 佐藤 伸子

東京都 徳本 清子

東京都 藤野 和子

(I部臨書) 東京都 坂東 静子

(II部創作) 千葉県 井口 加扇

(II部創作) 東京都 倉橋 康風

(II部創作) 東京都 広橋 正子

(II部臨書) 千葉県 長谷川 和子

(II部臨書) 東京都 松原 千鶴

(II部臨書) 東京都 矢野 季以

玉川堂賞

(I部創作) 埼玉県 伊藤 冷玉

(I部創作) 福島県 増子 雅真

(II部創作) 東京都 後藤 美夏

(II部創作) 東京都 小黒 玉玲

特別依頼

一照堂賞

玉川堂賞

玉川堂賞

(I部創作)

東京都内 記 瀨秋

(II部臨書)

東京都 柳沼 白峰

一照堂賞

(I部臨書)

東京都 五十崎 江彩

特別依頼

(I部臨書)

埼玉県 村上 織雪

(I部臨書)

埼玉県 田中 蘇星

○印は展覧会委員推挙

(I部創作)

東京都 安斉 邦子

(I部創作)

神奈川県 石毛 澄翠

(I部創作)

茨城県 井上 美智枝

(I部創作)

東京都 牛山 青蘭

(I部創作)

神奈川県 小口 暁子

(I部創作)

神奈川県 小野 美登里

(II部創作)

茨城県 桑島 令艸

(II部創作)

東京都 佐藤 伸子

(II部創作)

東京都 徳本 清子

(II部創作)

東京都 藤野 和子

(II部創作)

東京都 坂東 静子

(II部創作)

千葉県 井口 加扇

(II部創作)

東京都 倉橋 康風

(II部創作)

東京都 広橋 正子

(II部創作)

千葉県 長谷川 和子

(II部創作)

東京都 松原 千鶴

(II部創作)

東京都 矢野 季以

第四十九回
全書芸展入賞

公募 I部

漢 字

全書 芸賞

文部科学大臣賞

(創作)

千葉県 山岸 巧

○印は無鑑査出品委嘱

全書 芸賞

東京都知事賞

(臨書)

群馬県 大屋 咲良

全書 芸賞

(臨書)

新潟県 村山 未華

か な

全書 芸賞

文部科学大臣賞

(創作)

東京都 武内 寿々

秀作賞

漢 字

(臨書)

台湾 邱 尉庭

千葉県 近藤 富仙

神奈川県 藤本 敦尋

山口県 眞砂 鳩宗

東京都 柳瀬 華香

か な

(創作)

東京都 鈴井美知子

佳作賞

漢 字

(臨書)

青森県 赤坂 遥南

青森県 秋元 菜月

青森県 新井 才海

埼玉県 鹿野 翠玉

神奈川県 川口 良綵

埼玉県 古保 海鈴

青森県 澤田奈奈美

神奈川県 瀬尾 天耀

埼玉県 永堀末紗季

台湾 余 侑恩

か な

(創作)

東京都 川北 由香

埼玉県 佐藤 恵子

(臨書)

東京都 山口 幸子

公募 II部

漢 字

推 選

七十周年記念賞

(臨書)

茨城県 水野 久美

推 選

(臨書)

千葉県 二見 務

山口県 中村 聖舟

埼玉県 今井 彩香

東京都 梶田 珠泉

岐阜県 野田 華朋

(創作)

福岡県 小田原春光

か な

推 選

東京都知事賞

(臨書)

東京都 内山 結月

推 選

(創作)

神奈川県 小泉 純子

秀 逸

漢 字

(臨書)

秋田県 青池 穂湖

埼玉県 阿部 朱夏

千葉県 大坪 花鳳

山梨県 大村 竹峰

長野県 春日 三枝

山梨県 上條真沙子

神奈川県 小林富貴子

千葉県 志田真理子

東京都 島田 小橙

茨城県 谷本 凜佳

千葉県 永井 康彦

東京都 永野 彩花

岩手県 中村 碧

神奈川県 二宮紗矢香

福岡県 瀨 蕃秋

長野県 宮下 政子

埼玉県 横浜 春泉

(創作)

愛知県 浅井 優夏

東京都 喜田小夜華

か な

(創作)

東京都 中村 柚咲

神奈川県 松本 雛

東京都 半沢 松鳩

(臨書)

香川県 朝國 誠二

東京都 鈴木友佳子

埼玉県 辻 紅蘭

北海道 濱谷 進司

北海道 湯野 潮雪

優 作

漢 字

(臨書)

東京都 石神 泉南

千葉県 内山 恵月

北海道 大塚 江月

茨城県 大野 彩遙

東京都 岡山 春瑤

神奈川県 川原 和穂

東京都 木村 紅苑

新潟県 小林 美優

東京都 齋藤 焯茜

新潟県 齋藤 瑞稀

長野県 桜井 正美

千葉県 佐藤 廂環

新潟県 佐藤 泉雲

静岡県 島 翠安

北海道 下森 昭峰

東京都 鈴木美知子

北海道 鈴木 啓泉

神奈川県 鈴木 美音

埼玉県 千手 美和

北海道 高木 純子

新潟県 高橋 朋子

東京都 谷山 響

北海道 田村 正和

山口県 徳本佐知子

埼玉県 戸和 香雪

新潟県 永井 彩松

北海道 永井 裕子

埼玉県 新倉 優月

東京都 根岸久美子

埼玉県 根岸 佳子

東京都 古屋 凜華

新潟県 源川 梨花

愛知県 八木 光有

宮城県 山城 朋子

東京都 山田 祥月

千葉県 湯浅 媿洋

(創作)

神奈川県 石原 剛

佐賀県 江口 景雲

大阪府 畑中麻里安

か な

(創作)

埼玉県 井上 煌友

茨城県 大久保真理子

千葉県 鎌田 静子

長野県 小金澤満華

東京都 永井 三恵

北海道 丸清水良子

東京都 安田 明子

神奈川県 山岸 順子

(臨書)

東京都 五十嵐温子

東京都 大竹 慶子

東京都 北村 静豊

香川県 高森 平城

千葉県 谷本 加泉

北海道 戸塚 玉泉

北海道 南部 豊舟

新潟県 西山 裕子

香川県 広瀬真理子

本院役員（展覧会委員）

筆者・积文

名譽顧問

栖崎 華祥 草の穂にとまりて啼くよ富士が嶺の…
堀 天鶴 禪

評議員

梶田 越舟 臨・甲骨文

代表

目良 丹崖 浩然之氣

運営委員長

増子 総洋 心經。觀自在菩薩。行深般若波羅密多…

総務長

吉田 菁風 寒光一點竹間燈

運営総務

飯田 幸江	田原 芳琴	金子 閣亭	飯島 香苑	加藤 泰玉	菊池 李佳	石川 升心	中村 一誠	小泉 移山	古谷 春峰	原田 清琴	吉野 大巨	牧 尚菟	友岡 秋英	田島 霞舟	木口 映雨	片岡 苑雨	小番 彩峰	大澤 尚洋	濱野 悦子	松山 紀雨	飯田 瑤香	石丸 雨虹	富永 鳩山	水越 幽峰	杉浦 華桂	奥村 静香	黒田 祥園	片根 芟雨	貝瀬 芳雨	服部 大超	満田 真琴	高橋 蒼玄
紫陽花や白よりいでし浅みどり他一句	みちのくのしのぶ文字すり誰ゆゑに…	仁風導和氣	隠口の泊瀬の山は色づきぬ時雨の雨…	秋萩を妻問ふ鹿こそひとり子に草枕…	伊豆の雨柑子椿はやしなへど旅の…	天真而妙	永楽	明月照積雪	翰墨游戲	草臥て宿かるころや藤の花	樂哉無一事	をさなきを二人つれだち月草の…	人生無根帶飄如陌上塵分散逐風轉此已	月落鳥啼霜滿天楓橋夜泊轉蕭然	廣大無邊	憶昔揚州看月華滿城絃管滿人家	寒山颯々雨 秩琴冷々弦	仙風道骨	とほきよりまつりばやしひのひゞきく…	香焚聽雨	宮澤賢治詩 雨ニモマケズ風ニモマ…	瑞日禪雲	雨洗風磨	道無窮	かざるひの灯を置き見れば紅の牡丹…	重臨鸚鵡益堪哀…	紅葉やうく色づきわたりて秋の野…	嵐深山影寒、樵響不知處、緑樹早鶯啼	雲行雨施	長夜如年筆硯横	故郷の山のおけくれみどりの門に…	松寿千年

高市 乾外	齋藤 宮子	小松 古松	児玉 玲湖	神長 蘭徑	平澤 璇子	坂東 保枝	中川 啓玉	関原千恵子	小林 幸子	北山 成子	伊藤美喜子	井田智佐子	安藤 房枝	幹田 俊子	福山 行雲	鈴木 幸風	梶原貴美枝	大久保樹心	市川 春洋	堀口 紅楓	小池 白亭	山口 萱雨	山内 洋子	東風 茗雨	川上 栖竹	内田 泊雨	伊藤 泰洞	真中 桃林	津田 静風	大房 梅扇	日野 素龍	佐々木幽竹	大谷 磐雨
水清玉潤	秋の野の尾花にまじりさく花…他二首	白日依山盡黃河入海流欲窮千里目更上	春度春帰無限春 願與梅花自新	孟冬寒氣至北風何慘慄愁多知夜長仰觀	ほのぼのとあかしの浦のあざざりに…	来て見れば雪消の川べしろがねの…	臨・李柏文書	鐘さむきみ寺の庭のあさしもに白玉…	一蝶を放ちて蓮華浄土かな	庭さゆる月なりけりなをみなへし…	秋日和 千羽雀の 羽音かな…他二句	山吹のしら花となり零るるや春の…	かさくもり夕たつ浪の…	カラカラと木枯し一番足元を…	琴書自足閑中楽。天地能容醉後狂。	浪揺干臉笑。	寂然紅葉のさかりに高野にまうでて…	終日靜坐清風洒然。	忽見寒梅樹。花開漢水濱。	刮目相待	塵外孤標雲間獨歩	朱果繁霜後 甘甜半自零 忽驚林色曙	あれにける宿とて月はかはらねど…	涼葉蕭蕭散雨聲 虚堂浙浙掩霜清…	北風吹白雲 萬里渡河汾 心緒逢搖…	雅人深致	父のごと秋はいかめし母のごとあき…	躋攀	夕潮のおとしづかなり霧ふかき沖…	天高羣象正	臨・昨書帖	あたひなきたからといふともひとつ…	

高橋 純子 霞みつつ暮るると思ひし春の：他一首
 高宮 陽子 枝ごとの末まで匂ふ花なれば散るも：
 大野 幸子 やすらはで寝なましものを： 他一首
 山崎 梨雪 讀書得真趣懐古生遠思
 金子 美流 學古希古心 不學古人面 荆關境在胸：
 中島 光風 山川異域風月同天。寄諸仏子共結來縁
 箱山 蘆舟 ゆく秋のあはれを誰にかたらし：
 須藤 蘭雪 臨・風信帖
 長谷川陽幸 龍師火帝鳥官人皇始制文字乃服衣裳推
 小野 蒼州 巖花點寒溜 石磴掃春雲
 柳 杏秋 臨・張旭 般若波羅蜜多心經
 加藤 花揺 一筋の陽光射るごとさしこめば：他四首
 金森みどり 大空はうめのにはほに霞み：他二首
 金谷 柳谿 寒山唯白雲 寂寂絕埃塵 草座山家有
 小島 緑痕 結廬在人境 而無車馬喧 問君何能爾
 萩原 泉翠 始春乃波都弥乃家布能多麻婆波伎手尔
 渡邊 翠風 山川異域風月同天
 天草 玄峰 臨・西周金文・須篋
 稲葉 淳子 天下のものの上手といへどもはじめ：
 京 翠湖 臨・書譜
 佐藤 游翠 長策遠圖。云大體。譚言毅色。實謂忠良。
 原田 弘琴 白障子の明けゆく此の世の棧の影
 満田 裕子 九月ばかり夜一夜降り明かしたる雨：
 呉田 真琴 臨・温泉銘
 黒川 喜代 春の野にすみれ摘みにと来し我そ野：
 櫻井 浦石 臨・賀蘭汗造像記
 嶋口 一葉 含情凝睇謝君王 一別音容兩渺茫：
 古谷 清美 今朝みればやまも霞みてひさかたの：
 板倉 繁洋 臨・石門銘
 多田 公陽 布射遠丸替琴阮嘯恬筆倫紙鈞功任鈞(釋)
 星 知子 唐ころも着つつなれにし妻しあれば：
 山田 勝子 入日さす峰の浮雲たな引きてはるかに：
 山室 良峯 物類之起、必有所始。榮辱之來、必象：
 平山 北洲 臨・郁閣頌
 渋谷 絹子 大原や蝶の出で舞ふ臚月
 石塚 攻玉 臨・書譜

小島 祥泉 客過無名姓扁舟繫柳蔭窮秋南國淚殘日
 板倉 里佳 木の花はこきもすすきも紅梅……
 藤野 湖津 藤の花返り咲きたり花房の下を歩め：
 近藤 宗龍 福來於無爲
 竹内 鴻雪 魂
 内藤 巖泉 白草原頭望京師 黃河水流無尽時：(略)
 松本 光慧 春さめに花のみぞれの散りけるを：
 米野 貞城 英達
 須田 千哇 臨・魏靈藏造像記
 淺沼 啓雪 臨・王羲之尺牘
 窪 菁園 臨池作虛堂雨急瓦聲新
 斎藤 紫園 あきかせにたなびくものたえま：
 長谷川雅峯 臨・苦鉄印選
 松平 光風 わがやどのそともにててる： 他二首
 鎌田 志希 石かげの見ゆる池水照るまでに咲け：
 河合 菖汀 臨・広開土王碑
 高井 葉風 臨・伊都内親王願文
 吉原 芳蘭 初春令月氣淑風和梅披鏡前之粉蘭薰珮
 岩田 香舟 臨・書譜
 大倉 法子 滝の音は絶えて久しくなりぬれど：
 北村 鳳雪 うりはめば子ども思ほゆ くりはめ：
 西寫 澄子 梅の花散らば惜しけむ鶯の声のかぎ：
 橋爪 玉翠 漢國山河在 秦陵草樹深 暮雲千里：
 山下 桐佳 揮毫對客風生座 戴酒論詩月滿蓬
 奥山裕美子 のどかなる心をさらに過ごしつ：
 井上美智子 あき風の尾花さきしくたくれば渚に：
 小山 紅春 臨・書譜

総務

石井 清香 榴花映葉未全開槐影沈沈雨聲來小院地
 石井 竹心 石走る垂水の上のさわらびの：外一首
 石井 芳柳 心足身常閑
 石橋 芳耀 蕭寺樓臺對夕陰 淡煙疏磬散空林
 石丸 詠峰 跡もなき庭の淺茅に結はれ露の底：
 市川 蕙泉 臨・裴將軍詩
 伊藤 芑徑 霜天起長望 殘月生海門 風靜夜潮滿……
 井上 茜聲 千門春靜落紅香宛轉鶯聲隱綠楊
 猪俣 螢峰 臨・書譜
 今井 松堂 臨・蘭亭序
 岩崎 淳子 夕月夜ころもしのに白露のおく……
 遠藤 史伯 臨・玄莫帖
 大岩 玉蘭 臨・伊都内親王願文
 大内 千櫻 抱かれてこの世のはじめに見たる：
 大澤 玉翠 獨坐大雄峯
 大島 暎水 臨・西狹頌
 大塚 蘭徑 臨・開通褒斜道刻石
 岡田 靜園 団樂
 奥村 奈巳 さくら花ちりぬる風のなごりには：
 小作 晴芳 八月湖水平：
 小作 塘石 臨・初月帖
 小田桐華鏡 山雪に焚く火ばしらや二月空
 小田切景羊 折念
 小野 桂菘 落葉滿衡門蕭蕭風雨夕一燈溪上明何處
 海上 翠舟 臨・龔宝子碑
 曾良 道子 につこにこ上機嫌也ニツ星
 加藤 龍子 いろはにはへとちりぬるをわかよ：
 川嶋 坡景 臨・風信帖
 川端 澄子 大津皇子窃下於伊勢神宮：わがせこ：
 菊地 茜琇 臨・木簡
 北原 滄秋 鉤月耕雲慕古風
 北見 琇紅 我来萬里駕長風絕壑層雲許盡胸
 工藤 文園 春來ぬと人は言へども鶯の鳴かぬ：
 五井 修水 あさみどりすみわたりたる大ぞらの：
 合田 星華 月読の光りは清く照らせれど惑へる：
 小杉 翠峰 臨・風信帖

坂本 吟秋 星あひの夕べすずしきあまの河もみ：
 櫻田 東紅 暑中嘗黙坐澄心閉目
 佐藤 香葩 問余何意棲碧山、笑而不答心自閑
 佐藤 翠峰 うれしさをなにつつまむからころも
 佐藤 静漣 澤蘭侵小径河柳覆長渠
 佐藤 弘子 春の夜の白へる闇のをちこちによこた
 佐藤 容齋 臨・灌頂記
 島崎 秀葉 臨・司馬晒墓誌銘
 東海林千春 水心霜情
 白井 富代 明けぬれば暮るるものとは知りながら…
 菅野 節陽 かぜをいたみ… 他三首
 杉本 善子 みづ色にぬりたることきおほざらとし
 須田 凌丘 白楽天詩 東樓
 瀬波 雪華 兩岸楊花風作雪一池荷葉雨成珠
 五月女寿郷 達人輕祿位居處傍林泉洗硯魚吞墨…
 高尾 幸竹 臨・鄭義下碑
 高木 釜舟 江天一色無纖塵 皎皎空中孤月輪
 高梨 昭子 大空は梅のほひにかすみ 新古今集
 高橋 静鶴 臨・祭姪文稿
 高橋 春陽 臨・祭姪文稿
 高橋 玲光 臨・張猛龍碑
 田口 窓峰 臨・顔氏家廟碑
 竹下 明雪 なごり多みむつことつきて帰り行く…
 田島 三沙 大空に風音もなし青瑠璃の空押し…
 多田 露香 直養氣和養性樂天理安義命志有定心自
 田宝 瑞峰 臨・祭姪文稿
 田中 紫水 臨・張猛龍碑
 田中 泉心 めぐり逢ひて見しやそれとも…他一首
 田中 箏和 臨・隅田八幡神社人物画像鏡說文
 千葉 豊翠 秋山無雲復無風。谿頭看月出深松。…
 土屋 彩明 臨・仲尼夢奠帖
 土屋 信泉 臨・雁塔聖教序
 津村 廂雨 浮雲不共此山齊 山靄蒼蒼望轉迷…
 寺坂 一燈 臨・張玄墓誌銘
 豊田 柏翠 臨・樂毅論
 長澤 桂蓮 大雅久不作吾衰竟誰陳王風委蔓草戰國

中島 貴子 花いばら故郷の路に似たる哉。
 中島由希代 見るからに かたへ涼しき夏衣 日も
 永田 佐和 忽抜枉書已銷陶爾。御香爾裏及左衛士…
 中村 珠香 臨・鄒縣尖山大佛嶺刻經
 中村 節子 畑中に立てる一つ家人みえず童ひとり
 布川 知柳 幽蘭一國香
 根岸 蝶秋 抱質懷素盞寶藏輝
 原田 淡泉 臨・集王聖教序
 樋口 玉桜 夕月夜心もしのに白露の置くこの庭に
 久田 房子 蒼空の真洞にかかれる天漢あらはに落
 平賀 恵風 臨・争坐位文稿
 深澤 淳子 ぬはたまの月に向ひてほととぎす鳴く
 藤井 翠仙 臨・風信帖
 古川 扇女 臨・小島切
 堀江 雅子 臨・小島切
 萩田 薛香 臨・灌頂記
 松崎 紀慶 臨・晋祠銘
 三浦 掬水 臨・史晨碑
 美野 瀛邦 臨・張猛龍碑
 宮川 秀園 臨・晋祠銘
 宮本 鳳邨 臨・灌頂記
 六車 研匡 天地玄黄宇宙洪荒日月盈辰宿列張
 六車 小穂 嚴風
 向山 芳川 幽樹没青靄閑花落碧苔悠悠歸思少…
 村上 藻秋 樂事適來偏有興 閑身常得分無緣
 村瀬 菜穂 臨・祀三公山碑
 村田 久子 立田山あらしや峯によわるらむわたら
 村松喜美子 冬こもり春さり来れば万葉集
 本江 美穂 風のけしきに
 森 竹秋 臨・昨書帖
 矢崎 桃香 うちなびく春來にけらし山の際のとお
 八嶋 紅霞 臨・石門頌
 山岸 虹鮮 臨・風信帖
 山口 紅翠 清水へ祇園をよぎる人
 山口 習明 臨・魏靈藏造像記
 山口 松光 臨・建中告身帖

山倉 香葉 庭上一寒梅笑侵風雪開不爭又不力自占
 山崎 蘭粹 臨・木簡殘紙
 山根 恵美 雪の内に春はきにけりうぐひすのこほ
 横川 朱梢 臨・張遷碑
 若井 爽秋 臨・魏靈藏造像記
 若原 笙韵 臨・石門頌
 和田 恵子 臨・元永本古今集

展覧会委員

秋元 土龍 故人西辭黃鶴樓 煙花三月下揚州…
 秋山 茜風 臨・楊陽神道關
 阿部 圭香 夏の野の繁みに咲ける姫百合…他一首
 阿部 良紅 錯落秋聲風在林眼耳雙忘身亦失空中獨
 安蒜 玲川 臨・書譜
 飯澤 澄佳 臨・風信帖
 飯田 華香 春日山おして照らせるこの月は妹が庭
 飯田 柴景 香閣東山下烟花象外幽懸燈千嶂夕卷幔
 石堂 哇風 臨・書譜
 石橋紀代子 いくつかの雲ちとらばたづねまし
 磯崎 綾子 霰降りいたも風吹きさきよるや旗野に今夜
 磯田 春汀 臨・薦季直表
 伊藤 映紅 臨・鄭審則書・越州録跋
 伊藤 朔慧 臨・礼器碑
 糸賀 紫峰 臨・日月如馳帖
 井上 詠峰 臨・興福寺斷碑
 岩澤 雅子 臨・魏靈藏造像記
 上田 尤華 過鎌倉和賀江島 他年宗舶往來…自詠
 江坂 溪鶴 臨・祭姪文稿
 江戸川洋子 山ざくらかすみの衣あつくきてこの春
 大澤 翔鳳 臨・魏靈藏造像記
 大堀 鳩香 臨・石門頌
 岡崎 菖苑 分行接綺樹 倒影入清漪 不學御溝…
 岡村 梢紅 臨・敦煌漢簡
 小川 月華 臨・雁塔聖教序
 荻原 哇翠 雲よりもあまた重なることにより

小倉 松筠 山遠雲埋行客跡松寒風破旅人夢
 長田 宣子 空蟬のからはぎごとにとゝむれど…
 梶浦 夢慧 翩翩雙白鶴飛鳴相徘徊朝發青田郷暮入
 加瀬 清子 あからひく朝日おしける花原の他一首
 勝田千鶴子 春の野に霧立ち渡り降る雪と人…
 加藤 聡石 臨・柏酒帖
 金子 圭瑠 仁風導和氣
 菊池 洋子 萩が枝の露ためず吹く秋風に…他一首
 木下 紅蘭 臨・書譜
 久能 廣洋 旨酒与佳肴為君尽一杯不思無量興今日
 久保 美夏 しづかなる峠をのぼり来しときに
 小泉 紫扇 臨・灌頂記
 小泉 苜華 逸楽
 小島 翔香 秋風にさそわれたる雁がねはものおも
 小林 桃笙 臨・論經書詩
 小林 綾花 臨・憂懸帖
 斎藤 馨水 雲歸時帶雨數點木落又添山一峰
 嵯峨 帶琳 諸惡莫作衆善奉行自淨其意是諸佛教
 櫻田 東龍 臨・山門題字
 佐治 恵子 臨・近得書帖
 佐藤 薰泉 白鳥のはねのひとひら川の辺に冬の…
 佐藤 煌果 臨・張選碑
 佐野 暢石 何ごともしりのみゆく世の中に花は昔の
 下田美智子 ふりつみし高嶺のみ雪とけにけり…
 須藤美紀子 待つ春を雪ちる風にふりまきて…
 高田 茂美 葦の葉の霜枯るさまもおもむろにて
 高橋 玉堂 臨・法隆寺薬師造像銘
 高橋 萃香 此非孟徳之困於周郎者乎方其破荊州下
 高橋 摘星 徳厚者流光
 高橋 茗夏 道法自然
 高橋 美江 夕さらば屋戸開け設けて我待たむ夢に
 高原 真貴 ほととぎす来なきとよもす 他一首
 高山 尚鶴 臨・居延甲渠候官出土漢簡
 竹内 朱美 夏の夜はまだ宵ながらあけぬるを…
 武田 宰芳 臨・祭姪稿
 田中 好代 わが屋前の花橘は散りにけり悔しき時

田中 芝瞬 曉月暫飛千樹裏 秋河隔在數峰西
 田中 瑞保 沫雪の この頃継ぎてかく降らば…
 十枝 麗月 蹇驢渺渺涉煙津十里山村發興新青旆酒
 名内 玲玉 人而無遠慮必有近憂
 直井 みさ 咲く花は移るふ時ありあしひきの…
 中川 英雪 臨・李嶠詩
 中川 光葉 雲林野思幽夢
 中川 玲翔 花ぐもりいささか風のある日なり昼野
 長澤 光遥 臨・金文
 仲野 恵竹 臨・脩書帖
 中村 織洋 臨・賀蘭汗造象記
 中谷 牽洋 臨・張玄墓誌銘
 西田 亮子 秋萩のちりゆく見れば 他一首
 野川 玄篤 昔人已乘白雲去此地空余黃鶴樓黃鶴一
 能勢 美英 臨・争坐位文稿
 萩原 良子 山里は春まだ寒し旅人の桜かざして…
 長谷川紅衣 臨・木簡
 古川 綾花 臨・中秋帖
 保坂 洋子 人はいざ心もしらざることは花ぞむかしの
 松永 彩彩 猿將朔吹哀雲帶溪流駅相送独帰僧蕭…
 水野 祥雲 臨・争坐位文稿
 都田 暎翠 臨・石門頌
 宮沢 幽蘭 臨・山家心中集
 森 恵奏 臨・李柏尺牘
 森下 幽亭 臨・法隆寺百萬塔陀羅尼
 八峠 華紅 臨・美人董氏墓誌銘
 山口 虹苑 李白一斗詩百篇 長安市上酒家眠…
 山村 紫桜 臨・争坐位文稿
 山本 秀雪 臨・秋萩帖
 山本 菁烟 心無累
 鎌水 知子 新走わし羅木の枿八吉野杉
 吉川 伯雲 臨・随清嬬墓誌銘
 吉川富久子 やまざくら初雪降れば咲きに 他一首
 吉田恵利子 さ夜ふけて岩間のたぎつ音せぬは高根
 吉沼 祥紅 一陽來復
 若原 啓折 臨・張玄墓誌銘

渡邊 紅蘭 閑来無事不従容 睡覺東窓日已紅

委嘱役員小品

栖崎 華祥 我袖に香をだに残せ梅の花あかて散りぬる…
 堀 天鶴 心中無一事
 梶田 越舟 臨・金文
 目良 丹崖 巖風
 増子 総洋 竹裏無人聲池中虚月白
 吉田 菁風 幽懷
 高橋 蒼玄 山高水長
 満田 真琴 あらたまのとしゆきかへり春たはまつわが
 服部 大超 尋碑野寺雲生屢送容溪橋雪満衣
 貝瀬 芳雨 天高氣清
 片根 芩雨 落花寂寂啼山鳥。
 黒田 祥園 神無月かぜに紅葉のちるときはそこはかと
 奥村 静香 瑞色鮮
 杉浦 華桂 はり原の狭霧は雨にあらなくに衣はいたく…
 水越 幽峰 佳氣満高堂
 富永 鳩山 水音しんじつおちつきました
 石丸 雨虹 祚無極
 古谷 春峰 高懷
 小泉 移山 雲海
 金子 閣亭 虚往實歸
 小林 幸子 しらじらと とほき籠を流れたる 小川な…
 原田 弘琴 白魚を煮る酒の香や細雪
 大野 幸子 心新たに

第四十九回展 展覧会委員入賞		代表賞	漢字 多田 公陽	かな 大野 幸子	小野田通平賞	漢字 田宝 瑞峰 菊地 茜瑠	かな 竹下 明雪 高梨 昭子	小野田 昭賞	漢字 都田 暎翠	かな 吉川富久子	岩本 登賞	かな 宮沢 幽蘭
-------------------	--	-----	-------------	-------------	--------	----------------------	----------------------	--------	-------------	-------------	-------	-------------

第四十八回展 展覧会委員入賞		代表賞	漢字 大久保樹心	かな 原田 弘琴	小野田通平賞	漢字 橋爪 玉翠 小山 紅春	かな 井上美智子 大倉 法子	小野田 昭賞	漢字 高橋 静鶴	かな 村田 久子	岩本 登賞	漢字 櫻田 東龍
-------------------	--	-----	-------------	-------------	--------	----------------------	----------------------	--------	-------------	-------------	-------	-------------

第四十七回展 展覧会委員入賞		代表賞	漢字 鈴木 幸風	かな 金森みどり	小野田通平賞	漢字 小島 祥泉 石塚 攻玉	かな 渋谷 絹子 板倉 里佳	小野田 昭賞	漢字 蒔田 薛香	かな 小林 道子	岩本 登賞	かな 直井 みさ
-------------------	--	-----	-------------	-------------	--------	----------------------	----------------------	--------	-------------	-------------	-------	-------------

第49回 全書芸展について

昭和48年第1回開催(初期は役員展として実施)

社中の偏重がなく、審査は厳正・公平に投票制でおこなわれる
(審査員は日展・毎日・読売・サンケイ・独立等関係者多数)

○出品点数：1,327点

○部門■公募：I部=全書芸賞・秀作・佳作 II部=推選・秀逸・優作

公募部門トップに文部科学大臣賞、次点に東京都知事賞を授与

■無鑑査：本院の師範位及び無鑑査委嘱者(全書芸賞2回受賞)

大賞・準大賞・奨励賞・準奨励賞・玉川堂賞・一照堂賞

※本年に限り、公募・無鑑査に本院創立70周年記念賞を授与

■展覧会委員：代表賞(対象：運営総務)

〈歴代社長賞〉—小野田通平賞(対象：総務)

小野田昭賞(対象：常任理事)、岩本登賞(対象：理事以下)

○外部審査員 比田井和子(天来書院会長)

【主催：全日本書芸文化院】

比田井天来・田代秋鶴・尾上柴舟の門人を中心に昭和25年創設

会長 桑原翠邦(現皇太子御進講)～昭和46年

以降代表制となる 二宮景雲・高澤南総・田上帯雨・堀愛泉・金満総峰

平林香園・富永秋山・榑崎華祥・堀天鶴・大倉谷山 現代表 目良丹崖(令和2年～)

月刊誌「書宗」創刊、昭和47年「全書芸」に改題 一般版/学生版/ペン全書芸

古典重視の純正書道を標榜 他に、書初大会・全国書道コンクール等開催

第49回 近世大家遺墨

全書展特別展示

展示作品は令和元年度全書芸誌鑑賞ルームに掲載されたものです。
(解説・石川升心)

○渡邊沙鷗 往在都。見諸葛願。會具問蜀中事。云成都城池門屋樓觀。皆是秦時司馬錯所脩。令人遠想慨然。爲爾不。信乙乙示。爲廣虞異聞。沙鷗臨

文久三年、大正五年。書は恒川宕谷に学び上京し鳴鶴を訪ねるが、間もなく鳴鶴の薦めで一六、梧竹を訪ねる。「現今、師匠の流儀によつて型の如き書で満足している者の多いのは誠に遺憾である。二人にはそれぞれ個性がある。書々は筆者の個性が表現されなければならない。」など梧竹の説に従い、有り余る才とすぐれた芸術感覚で自己を表現、その書は清新で溢れんばかりの詩情に富み格調が高い。五十二才の若さで早逝した。

○尾上柴舟 ぶりおはるえだのゆきよりいさ、かのくろみをおびてうめ さけるみゆ 八郎

明治九年、昭和三二年。岡山県出身。東京帝大大学院出の国文学者であり、和歌は幼少より習われ神童の名がある。十五歳で上京、大口鯛二に入門し歌、書を学ぶ。学習院、東京女高師教授、他に、早大、東洋大、立正大、実践、聖心、東京教育大などに出演し、その関係で歌や書の門人が多い。「平安朝時代の草仮名の研究」によつて文学博士となり、のちに芸術院会員に推される。また歌会始詠進歌の選者をつとめ、国文学者、歌人、書家としてその業績は大きい。

○比田井天來 俯仰兩青空 舟行明鏡中 蓬萊定不遠 正要一帆風 天來書

明治五年、昭和十四年。長野県に生まれる。幼名を常太郎、後に鴻。字を象之、号は天來、画沙道人、大撰山人などと号した。明治三十年二十六歳で上京し日下部鳴鶴に師事する。剛毛筆による古典の探求により「古法」を発見、実証されたのは「学書畫蹄」の刊行であるといわれる。晩年再び羊毛による用筆に意を傾ける。六十六歳帝國芸術院会員に任ぜられる。昭和十四年六十八歳逝去。作品は大膽な運筆と独自の書法で多様な技法。

○桑原翠邦 吟到梅華句亦香 山人魚目

明治三十九年、平成七年。北海道帯広に生まれる。札幌鉄道局教習所在学中大塚鶴洞に師事し、川谷尚亭北遊に随行する。比田井天來北遊の時、知遇を得上

京を勧められる。後に書学院教授として天來の稽古を手伝う。天來の命を受けて北京に渡る。帰国後招かれて再び大陸に渡航。各地を遊歴する。一九五〇年より二〇余り全日本書芸文化院の会長を務めた。一九七二年東宮御所へ書道の御進講の命を拝し、これを機に書道界の一切の役職を離れる。平成七年九十歳で歿す。

○田代秋鶴 易俗移風慕古賢 樂壇莅職廿餘年 研精夙盡薰陶任 弦誦常臨 講習筵 氣學洋乎千曲水 心希壯絶淺間烟 荷榮豈是偶然事 偏 禱夫君康健全

明治十六年、昭和二十一年。長野県に生まれる。東京音楽学校師範科を卒業、郷里の小学校へ勤務したが再度上京し文京区本郷の誠之小学校で音楽の専科教員として二十五年間勤めた。丹羽海鶴に入門し、日下部鳴鶴、比田井天來にも師事し書の研究に没頭した。東京高等師範学校講師、文部省検定試験委員ほか、教育書道界の任職を歴任。朗澄雅健、格調の高い独自の書風を樹立。強盗の兇刃により六十二歳で歿す。

○日下部鳴鶴 耶馬溪山天下奇 也通書勢也通詩 神驚魄動杜韓筆 虬躍龍騰秦漢碑 耶馬溪 六絶之一 八十二翁 鳴鶴

天保九年、大正十一年。滋賀県生まれ。明治十三年楊守敬の來朝があり巖谷一六、松田雪柯等とともに金石学、書学を尋ね廻腕法を用筆を学んだ。鳴鶴流の書法を学び慕うもの多く幾多の門下を育成した。門下からは沙鶴、雪竹、海鶴、天來等多くの逸材を輩出した。その書は清頸、謹密で、氣品を具え日本の書道界に新風をおこした功績は大きい。この作品は鳴鶴八十二歳の作で清澄で格調高い。

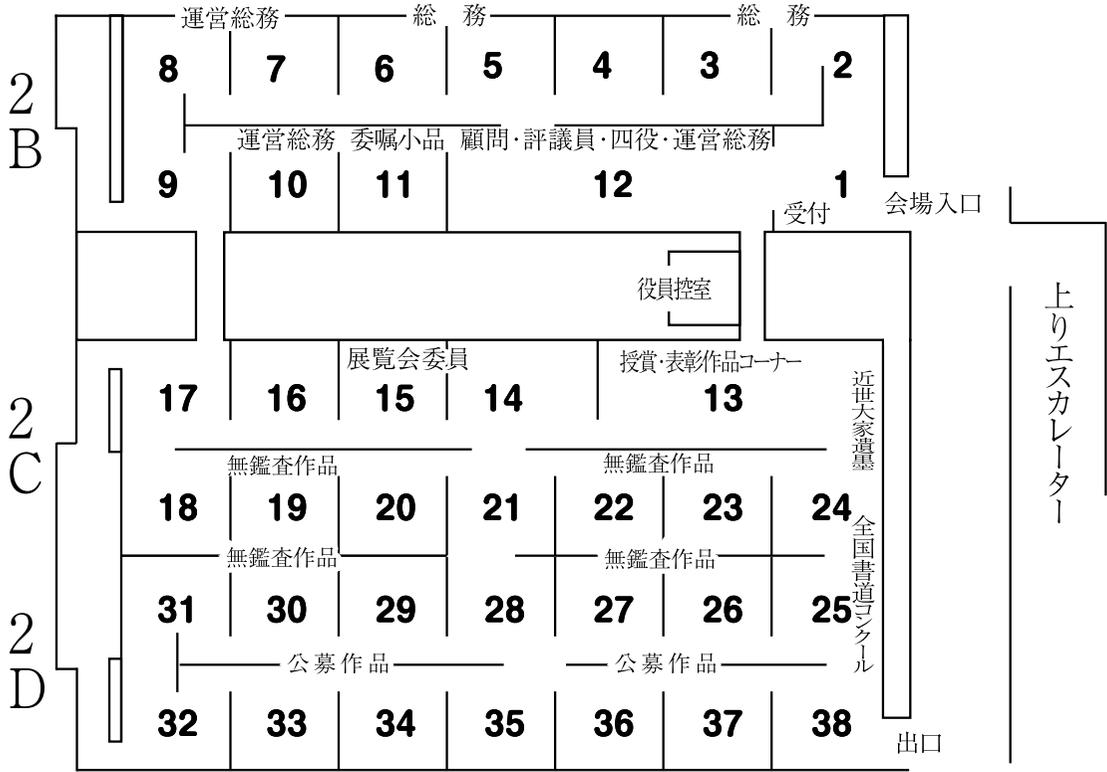
○中林梧竹 草色萋萋樹色稠 漢陽南繞六江流 人乘黃鶴飛無跡 千載空餘 黃雀樓 過漢陽 梧竹

文政十年、大正二年。現在の佐賀県小城に生まれる。十八歳で江戸に出て山内香雪、市川米庵に学んだ。後中国に渡り楊守敬の師、潘存に学び一家を成した。著書に「梧竹堂書話」がある。銀座の洋服商「伊勢幸」に寄寓し、鳴鶴、一六、蒼海の諸家と交流、強靱な線に用筆、独自の造形、味わい深く豊かな詩情がある。帰郷し梧竹村荘で八十七歳の生涯を終えた。生涯の主柱は深い信仰心と武士道精神で、練心と練筆に究める道であった。

○丹羽海鶴 險夷原不帶胸中何異浮 雲過太空夜靜海濤三萬里 月明飛錫 下天風 渥美君清屬 海鶴正長書

文久三年、昭和六年。岐阜県中津川市に生まれる。名は正長、字は壽郷、海鶴は号である。飛騨高山の小学校で教鞭を執りながら書道を研究。明治二十一年、日下部鳴鶴が高山に来遊された。鳴鶴の書と見識の高さに敬服し経生師と仰ぐ。後に上京し内弟子として書道の研鑽に打ちこんだ。学習院教官、東京高等師範講師、大倉高等商業学校教授の外、文部省教員検定試験委員等をつとめた。その書は楷、行、を最も得意とし、謹直にして気品が高い。

会場案内図



※概略の配置図であり、壁面レイアウト・展示の場所は予告なく変更します。
 ※開催情報は変更となる場合があります。最新の情報は国立新美術館ホームページ、03-6812-9921(会期中のみ)でご確認下さい。尚、美術館に駐車場はありません。

- 展 示: 公募・無鑑査・展覧会委員・委嘱役員小品
- 特別展示: 近世大家遺墨・全国書道コンクール優秀作品
- 会 場: 国立新美術館 2階展示室 2B・2C・2D
- 会 期: 令和2年12月10日(木)～12月21日(月)
- 時 間: 10時～18時(入場は17時30分まで)・15日(火)は休館日
 最終日は14時終了(入場は13時30分まで)



作品展示室番号一覧

※作品解説は状況により予告なく中止する場合があります。

		作 品 解 説	
日 曜 日	11:00～	14:00～	
10日(木)	古谷 春峰(漢字)	原田 弘琴(かな)	
12日(土)	小林 幸子(かな)	石川 升心(漢字)	
19日(土)	福山 行雲(漢字)	坂東 保枝(かな)	
20日(日)	佐藤 游翠(漢字)	杉浦 華桂(かな)	

※会場担当・解説は予告なく変更することがあります。
 作品解説と会場担当は異なる場合があります。

		会 場 担 当	
日 曜 日	10:00～13:30	13:30～17:00	
10日(木)	古谷 春峰	原田 弘琴	
11日(金)	増子 総洋	水越 幽峰	
12日(土)	小林 幸子	石川 升心	
13日(日)	満田 裕子	川上 栢竹	
14日(月)	服部 大超	目良 丹崖	
15日(火)	休 館 日		
16日(水)	大久保樹心	黒田 祥園	
17日(木)	小泉 移山	金子 閣亭	
18日(金)	大野 幸子	奥村 静香	
19日(土)	福山 行雲	坂東 保枝	
20日(日)	佐藤 游翠	杉浦 華桂	
21日(月)	吉田 菁風		



私たちは「日本の書道文化」の
 ユネスコ無形文化遺産登録を
 応援しています。